

(概要版)

# 西の湖美術館づくりのために



この美術館の館長はヨシ、副館長は緋鯉、そして風景が展示品です

## 質問1 なんで美術館なのですか

答 西の湖の湖畔、あるいは西の湖に流れ込む川岸を散歩しているとしましょう、散歩に疲れてふとたちどまった時に見る風景が絵の様に美しい、ちょうど美術館を訪れて、つぎつぎに部屋から部屋へ絵をみて歩くのと同じように、西の湖周辺の場所場所に楽しめる美しい風景を作っていくという提案です。美術館の建物を作ろうということではありません。また、美術館は集めてきた絵や彫刻を時代を越えて長い年月大切に保管しています。

それと同様、美しい風景をつくりあげ、それを聖域として大切に守っていくという呼びかけなのです。

## 質問2 何故水環境の皆さんが美しい風景を美術館づくりで残そうと言い出したのですか

答 風景(景観)の保全も、環境の保全も同じことだと思えるようになったからです。

西の湖周辺のヨシ原に代表される自然の風景は、手つかずの自然ではありません。どこかで必ず人の手が入った自然になっています。風景はその時代の暮らしを映し出している鏡なのです。暮らしが荒れたらヨシ原も荒れる。町並みの乱れはコミュニティの乱れ、風景(景観)の荒れようや乱れようを見て自分達の生活を省みしてみる。

持続可能な社会へのアプローチは風景(景観)の保全から入るのが案外早道かもしれないと考えるようになったからです。

## 質問3 そうすると美術館づくりの 風景(景観)の目標はどうなりますか

答 日本人が持続可能な暮らしをしていた時代の景観がモデルになります。

これからの時代、持続可能な暮らしをしないと地球の資源や気候が持たないことがはっきりしてきています。自分の子孫は自分の将来の姿、それを困らせるようなことを、現在の自分がしていることに気がつき出したのです。そうはいつても新しい持続可能な暮らしはどのような姿になるのか未だ姿が見えてきてはいませんが、大中の湖、そして小中の湖の干拓前の風景(景観)と環境を目標にしていきたいと思っています。

## 質問4 大中の湖、小中の湖の干拓前の環境を目標にとの事ですが水質のデータは有るのですか

答 大中の湖・小中の湖の干拓前の水質のデータはありません。そこでどのような水質の水にどのような魚が住むかを手がかりにして、大中の湖、小中の湖の干拓前に棲んでいた魚の代表に「オイカワ(ハイ)」を選びました。西の湖のあらゆる所を「オイカワ」の棲む水質(水質B:ややきれいな水質)にするのが第一目標です。

## 質問5 どのようにして達成しますか

答 田圃から代掻きの泥水を流さない、そのために耕さなくて済む米作り技術を確立する。消費者が農薬、化学肥料、添加物が入った農作物は買わない、少々高くついても安全・安心の農作物をほしいと言いつつ、農家もそのために知恵を絞る。ヨシ原の手入れ・湖の水草の採取が収益を生むようなコミュニティビジネスを工夫する。湖底の泥上げ、上げたあとの覆砂など行政の力に住民の力を併せて手入れすると、西の湖に多くの生き物が戻ってくるしそのなかにきつと「オイカワ」が混じっていると思っています。

## 質問6 治水や利水はどうなります。生き物の数がまた減るようになりませんか

答 治水、利水も人間にとって大切なことです。でも環境や景観とうまく調和する仕事が出来るとおもっています。それはこの流域に住む我々次第だからです。

## 質問7 では具体的にどのようなことをしようと考えているのですか

答 その代表例は次の通りです。

景観について:ヨシ原の保全を新しいビジネスで行なえるようにすること。

環境について:生物多様性の復活を図ること。その手始めに湖底の泥を浚渫し、昔砂地であったところを覆砂して、貝の復活を図ることから着手すること。

治水について:琵琶湖の高水対策のため西の湖の周囲の堤防の高上げ・工事が必要になりますがこれを機に、この堤防を西の湖を一周出来る自然観察周回道路として利用する意見を提案し実現を図ること。

利水について:既得権の洗い直しの上、使っていない設備の撤去を求めること。

## 質問8 西の湖美術館の館長はヨシ、副館長はヒゴイ、その下で美術館を守る人は周囲の流域住民だとか、本当ですか

答 本当です、何故そうなるか気になる人は資料版を御覧下さい。

## 質問9 西の湖美術館を守る人にどのようなことを期待しますか

答 楽しいことから始めようと思っています。そこで、例えば、それぞれの集落が競争で地元の水環境を整えて蛍の飛ばしあい、トンボの飛ばしあいを始めてくれませんか。

### ■連絡先

事務局である東近江水環境自治協議会 Tel.& Fax.:0748-46-2006(丹波 道明)、  
e-mail:tamba-m@mx.biwa.ne.jpに「西の湖美術館づくり」についてのご意見等をお寄せください。

## 西の湖保全自治連絡協議会

## 2 美術館づくりの目標



### 古きを訪ね今に生かすことから始める

里山や里川など先祖が作り出してきた傑作(持続可能な社会)を壊さずにうまく保全しながら、生き物である人間のための安全性や利便性を作り出す科学や技術こそが求められています。

### 経済一辺倒から脱却し多様な価値観から開発

内湖は、本来、水域と調和した暮らしを形成し、持続可能な美しい風景であるのに、経済優先から消滅を余儀なくされてきました。今日の世界的な自然遺産保護や日本における景観法による保護の動きを意識すべきです。

### (1) その視座

美術館づくりは、マザーレイク21計画の目標の実現にも寄与

次のような計画がマザーレイク計画と重なっています。

- ◇水質の保全:昭和30年代の水質
  - ◇水源かん養:自然の水循環を生かす淡海の森と暮らし
  - ◇自然的環境:湖の環境を守る豊かな自然生態系のなかで、多様な生物の営みによって四季折々に美しい固有の景観を見せる琵琶湖(マザーレイク21計画抜粋)
- ※西の湖では、こうした取組のスピードアップを図ります。

### (2) そのイメージとマザーレイク計画



### (3) その目標(主なもの)

- ◇景観目標
  - \*内湖開拓前の自然景観に近づけること
  - \*西の湖のヨシ原、西の湖に隣接する里山の自然景観の手入れ
  - \*町並みなど歴史的建造物の保全
- ◇環境目標
  - \*マザーレイク21計画の数値目標よりさらに進んだ水質
  - \*モロコの琵琶湖からの遡上と産卵
- ◇治水目標
  - \*琵琶湖の高水対策の早期実施
- ◇利水対策
  - \*景観や環境目標を妨げる利水行為のチェック
  - \*漁業権、水利権の洗い直しと必要な措置の検討



## 1 西の湖美術館づくりとは

### 西の湖は子孫からの預かりもの

「西の湖」は消えていった琵琶湖の内湖にあって奇跡的に残された宝物です。そして、「美術館づくり」は、西の湖とその周辺のすばらしい景観を美術作品と見立てて、住民が中心となって保全していこうとするものです。

### 手入れで維持される風景

ヨシ原に代表される自然の風景は人の手が入ることによって維持されており、その時代の暮らしを映し出す鏡です。ですから人の手による「美術館づくり」というアプローチは、持続可能な社会実現の早道ではないでしょうか。

### 多くの住民の参加

周辺の自治会やNPOで構成する「西の湖保全自治連絡協議会」は、多くの住民の参加を求め、取り組み始めたいと考えています。



### わたしたち、一人ひとりの行動からはじまる...

「奇跡的に残された宝物が美しくそこにありつづけること」

が幸せな暮らしにつながります



## 3 主な取り組み例

現在、次のような取組が考えられています。

### 景観対策

- \*重要文化的景観の選定を受ける景観づくり
- \*コミュニティレベルによる自然景観の手入れ

### 環境対策

- \*固有種の魚貝類を対象にした生物多様性の回復実験
- \*植物、鳥類、魚類および水生昆虫の調査
- \*水路の開削、樋門の開閉の工夫による魚道の確保、水還流の促進
- \*なだらかな傾斜を持つ護岸への変更
- \*河川や水路上の可動式育成ベッドによる有機野菜の生産
- \*湖底汚泥除去後の砂の覆土
- \*ヨシ博物館の整備
- \*体験学習センターの整備



### 治水対策

- \*自然観察周回道路の整備



### 利水対策

- \*ヨシ原内の水路の復元、自然観察道等のインフラ整備



## 4 取り組みを進めるために

### ルールづくり

住民による、美術館づくりの実現を図るためのルールをつくります。

- (1)西の湖の変化や異常の発生を前提とした連絡体制の整備
- (2)西の湖の現状改善を求める場合の意見交換の場の準備
- (3)意見交換をおこなうときの決まり
- (4)決定案の関係住民や関係者への提示
- (5)関係者の同意と早期実現のための工夫と行動

### 意見の結集

この構想推進にあたっては、様々な方々の意見を結集します。

- (1)流域住民だけでなく、幅広く自由な意見を求めるとともに、「西の湖美術館学芸員」の育成や西の湖体験ツアーを行ないます。
- (2)構想の推進を子供達とともに行ないます。
- (3)構想の実現を行政とのパートナーシップで行ないます。

